

## ヤコブへの手紙 1 章 26、27 節

### 「自己中心からの自由、他者のために生きる自由」

ここにいらっしゃるオープンドアの皆さん。またオンラインで礼拝に参加されている皆さん。今日は。イースターから二週間が経ちました。賛美で、語られた言葉で、イースターエッグハントや沢山の美味しい料理で、またイースターエッグ作り、その他の多くの事を通して、イエス様が私達を自由にして下さったお祝いをしました。イエス様は、その死を通して私達に罪からの自由を与えて下さり、復活を通して死から私達を解放して下さいました。

私達の自由を取り去る全てのものからの真の解放は、十字架と空っぽになった墓から生ずるのです。これが私達がよって立つ信仰です。この信仰無くして自由を得るためという名目で為される全ての政治的、経済的、軍事的な闘いは、最終的に私達が必要とする深い、褪(あ)せることのない(永続する)自由をもたらすことができないのです。

これらは、私達が毎年のイースターで覚えておくべき基本的な真実です。ですが、その中身には、自由な人間として生きるということがどのような意味なのかを私達が深く完全に理解したいと思う時に、受け取らなければならない、もっと多くの特定(詳しい)の教えがあります。

神様の言葉は、私達が死んだ時に天国に行くための切符に穴を開けてくれるような教えだけではなく、どのようにすれば、この世における毎日の生活で最高の人生を生きることができるかということも教えてくれるのです。

ヤコブの手紙は聖書の中でも、クリスチャンの自由とはどのようなものを明確に表している箇所の一つであり、私達の信仰生活への極めて実践的なガイドなのです。

ヤコブの手紙で書かれている自由に対する説明は、多様な文化の中で様々な人々がよく述べているものと異なっているので、驚かれるかもしれません。

これからの数ヶ月の礼拝メッセージをどうしようかと祈りながら考えた中で、私はヤコブの手紙に惹きつけられたのです。それでは一緒に探っていきましょう。

これから、神様が人を自由にする時には、ただ単に自分を傷つけるもの(憎み、恐れ、心配、他の罪)からだけではなく、深く愛する、完全に人生を楽しむ、より良き世界を想像し、神様の導きと力によって、そのような世界を作り上げるために働く、その為に自由にされるという事を見ていきます。

それは、とても能動的な種類の自由であって、何かに対して、あるいはどこかの力のあるグループと不断に戦うということだけではなく、全ての場所に存在し、全ての人を深く愛しておられ、全能で全てを知っておられる神様の存在を意識しながら生きることでもあるのです。

私達の生活において、神様が私達を自由にされる例の一つに、私達を自己中心から自由にして下さり、神様と他の人のために自由に生きるということがあります。

私達がキリストに出会い、キリストを知って、信仰を持ってキリストに従う決心をする時、私達は人生を神様の御手に委ねることになります。私達は変換のプロセスを始めるのです。

私達は、神様が見るように見る、神様が愛するように愛する、神様が価値のあると思われることに価値を見出す、そのような人間になるよう成長を始めます。悲しいことに、私達がこの世にいる間は、この成長プロセスは完成することはありません。完成するのは、天国へ行った後のことでしょう。私達がこの世界にいる人間である限り、このプロセスにおいては、私達は常に不完全であり、欠けた者なのです。

ですが、クリスチャンとは、この変換プロセスを始めてしまった人々なのです。これは洗脳されること、あるいは、自由に考えることを止めてしまうことでもありません。クリスチャンになると言うことは、駐車場に自分の車を駐車したり、洋服掛けに上着を掛けたりするように(相応しい場所に相応しいことをする)、教会に入るときに入口ドアの前で、自分の心の状態をチェックすることではありません。(教会に入る前に相応しいと思える状態になってから入る)

事実、もしも、あなたがそのようにするとしたら、キリストや信仰のことを誤解してしまい、そして、神様の教えに従って生きることに失敗するでしょう。

それでもなお、私達がイエス様に従う者となる時、そこには神様との契約があります。私達は神様の御手の中で、自由に生活する場所を選択することができます。神様は、その選択を手にとって、私達のために、神様の良い計画に従って形作り、満たし、導き、使われると約束して下さっています。神様は、私達が信頼する時、私達の必要を満たして下さると保証しています。

私達は、自分の経験に従って、これが真実であるか見始める時、私達が持つ必要のない恐怖から、また、自分自身に備わっていないかならなないと思ってしまう信じることのプレッシャーから自由になることを学びます。

私が知っている最も惨めな人達とは、いつの時も自分自身の問題を考えている人です。そのような人は時に、これを意識しないのですが、それは我儘な振る舞いの典型なのです。全ての自分の想いが、そのことに集中してしまうからです。そのような自分自身の世界で生きることは大変寂しく、退屈な経験になりうることです。そして、それは、しばしばその人の内側で鎖に繋がれたままになります。

私達がキリストを知るようになると、これら全てのストレスをキリストの元へ持って行くことができ、しがみつくことを拒否できるようになります。ですから、ヤコブは2章7節後段で“あなた方は神に属しているのです。”と言っているのです。

この信仰による成長のプロセスの重要な部分は、自己中心から立ち去り、他者のために生きることへと向かうことです。その意味するところは、まず最も重要なこととして、キリストの為に生き、そして、その結果、他の人々の助けとなるような生き方を選択することです。ですから今日のメッセージでは、自分の内側を見て自分のためにだけ生きることから、自分の外側に目を向け他者の為に生きることへと私達の

焦点を変えるために神様が働かれるという真実を中心に進めていきたいと思うのです。

内側から私達を自由にすることによって、神様は、私達の周りの世界に対する私達の関心を方向転換させて、私達が最大限に貢献できるようにして下さいます。

このことが起きると、私達はすぐに、この世界の問題は私達自身の力で解決するにはとてつもなく大きいものであること、そのために必要なものは私達が持っている物では、はるかに足りないと分かります。そこには、他者の為に生きることへの葛藤、苦痛、失敗、損失があるのです。それにも拘らず、いく世紀にもわたって信仰に生きた人々は同時に、驚くべきことを発見していたのです。それは、他者のためにキリストと共に働く時には、そこに喜びがあるということです。よく言われることですが、本当の喜び(Joy)は、まず最初にキリスト(Jesus)の為に生きること、そして他者(Others)のために生きること、最後に自分自身(Yourself)のために生きることから来ています。これが神様が私達に選択すべき事として教えている価値観の体系であり、そのようにすることで私達は深い喜びを毎日見つけることができるのです。

キリストの名前で人々に仕えることについて語る時、私達は度々、とりわけ四つの種類の人々に対する支援について議論されているのを聞きます。それは、やもめ、孤児、異邦人(外国人)そして貧しい人々です。それは、これらの人々が聖書に繰り返し登場するからです。神様は全ての人々を十分に、深く、そして完璧に愛しておられると明確に教えています。その上に、神様は、特別な種類の哀れみを、苦しみを負っている人々に対して持つておられます。そのような状態にある人々は度々、とりわけ困難な苦勞を負っているのです。

ヤコブは私達に、そのような人々に対する私達の行動方法が、単に社会正義の問題としてだけではなく、私達の信仰に強く関係することだと言っています。

それらの人々へ援助すること、そのような良い行動は、私達の救いのための基準(条件)ではありません。私達は私達の行いによって救われるのではありません。また私達は、信仰プラス行いによって救われるのでもありません。私達は、行う信仰(良い行いが伴う信仰)によって救われるのです。ヤコブは、本当の信仰は一連の正しい信念だけではないと言っています。ヤコブは”行のない信仰は死んでいます。”とさえ言っています。(ヤコブ書 2 章 16 節、キング・ジェームス訳)

偉大な教えの数々よりも、信仰は関係性の中にあるとヤコブは示しています。まず、最も大事なことは、信仰は、何より救いを通して形成される神様との関係であり、そして、このことを(救いの御業)通して行われる他の人々やその他の神様が作られた残りのものとの健全な状態にあることです。その上で、人々を勇気づけ、自由に、繁栄を助けるという行動になるのです。

なので、ヤコブは(1 章 27 節後段)で、”やもめや親のいない子供達が困っている時には面倒を見なさい。”と言っています。神様は、そうすることを喜ばれるでしょう。ただ単にうわべだけのキリスト教すなわち立派な一連の信心ではないからです。

私達の社会は、これら”危機的な状態にある’人々を世話するよう常に私達を導いている訳ではありません。例えば、最近、ダウン症をほぼ 100%一掃したというアイスランドの宣言がニュースになっていました。2000 年以降、これを実現するため妊婦検診が行われ、ダウン症児を出産することが分かった、ほとんど全ての妊婦が中絶を選択したのです。私達は、病気がほとんど無くなったと喜ぶべきなのでしょうか？ それとも人命が奪われたとして怖がるべきなのでしょうか？ それとも他になにかがあるのでしょうか？

聖書の神様は、これらの難しい質問全ての答えをはっきりと説明していませんが、はっきりしているのは、死ではなく命の側の立場に立っておられるということです。神様は、神様に従う人々が単に命が取り去られることに抗議するだけでなく、どのような理由であれ両親から面倒を見てもらえない状態で生まれた子供に介入し、世話をするよう勧めています。養子縁組の促進と両親のいない子供達の世話を支援する取組は、心にキリストを持つ人々にとってはごく自然な反応なのです。

ヤコブの言葉は、社会正義に向ける神様の大きな情熱を表した旧約聖書の預言者の言葉を反映しています。例えばエレミヤ書 7 章 5～7 節では、  
’もし、本当に、あなた方が行いとわざとを改め、あなた方の間で公儀を行い、在留異国人、みなしご、やもめをしいたげず、罪のない者の血をこのところで流さず、ほかの神々に従って自分の身に災いを招くようなことをしなければ、私はこの所、私があるあなた方の先祖に与えたこの地に、とこしえからとこしえまで、あなた方を住まわせよう。“

聖書の至るところで、神様は従う人々に、在留外国人を公平に扱うように言っています。そして、神様は度々、そのようにすべき特別な理由を思い起こさせています。それは、かつて神様に解放されるまで、エジプトの地で外国人の立場であったからです。彼らは、自分の土地を持ち、最大規模の少数民族である恩恵を享受し、また、神様の善性と優しさ故にだけによって、モーセを通して自由にされたのです。

今日の世界で、聖書の時代と同様に、私達が心を閉ざし、他の国の人々が深刻に入国を必要としているのに国境を閉ざしていることは、キリストに従う者が見出す賢明さ、高潔さの意に反することです。ご承知の通り、現在、世界の多くの地域で、どの位の数の人々を安全かつ公平に自分達の国に受け入れることができるかという熱い議論が繰り広げられています。私の国アメリカは 2016 年に 150 万人、前年は 140 万人の合法移民を受け入れました。更に、多くの非合法移民がいますが・・・日本は 2016 年に約 15 万人を受け入れています。(アメリカの約 1/10 です。)

ある人は多すぎる、またある人は少なすぎると思っており、一番いい方法は国境を完全にオープンにすべきであると考えたり、反対に完全に閉鎖すべきと思う人もいます。道理をわきまえる愛情深い人が、憎しみに満ちた人種差別主義者にならず、又は、常識はずれている人にならないで受け入れることのできる意見は多いのです。

しかし、クリスチャンは、聖書の神様が基本的に人々を受け入れ、拒絶しないという立場を取っていると見ます。神様は私達に、この立場を積極的に、神様と同じように特別な方法を発見し、作り出すよう呼びかけています。少なくとも民主主義においては、神様は、私達が権力を委任している指導者達一彼らはこの問題について決定権を多く持っているのですが一に対する責任を普通の人々に負わせているようです。キリスト教の教えの中には、一応ことわざとして、結局、人は自分達に相応しい指導者を得ると言われているものがあります。

神様は神様に従う者に、神様が与えてくださった信仰に生きる方法として正義と平和のために働きなさいとずっと呼びかけています。

神様が特別に気遣っている人々の最後のグループは、貧しい人達です。やもめ、孤児、在留外国人も同様に度々この範疇に入ります。ヤコブ書 2 章 5～6 章前段で、ヤコブは私達にこのように言っています。

“よく聞きなさい。愛する兄弟たち。神は、この世の貧しい人達を選んで信仰に富む者とし、神を愛する約束されている御国を相続する者とされたではありませんか。それなのに、あなた方は貧しい人を軽蔑したのです。”

ヤコブ書の後半で、ヤコブはクリスチャンに、クリスチャンの歴史における冷たい現実と続いている大きな影響を見るよう強いています。彼らはキリストに似た者として行動することに失敗しており、それが不公平な経済的な相違へと導いていたのです。5 章 3 節後段～6 節でヤコブは、彼らに対してこのように言っています。

“あなた方は終わりの日に財宝をたくわえました。見なさい。あなた方の畑の刈り入れをした労働者への未払い賃金が、叫びの声をあげています。そして、取り入れをした人達の叫び声は、万軍の主の耳に届いています。あなた方は、地上で贅沢に暮らし快樂にふけり殺される日にあたって自分の心を太らせました。あなた方は、正しい人を罪に定めて、殺しました。彼はあなたがたに抵抗しません。”

私達が貧しい人を扱う方法は、私達の神様にとって些細(小さな)なことではありません。

神様はそのことについて聖書で何度も、何度も語っておられます。ヤコブ書 2 章 14～15 節で以下のとおり、ヤコブは尋ねています。

“私の兄弟たち。誰かが自分には信仰があると言っても、その人に行いがいいなら、何の役に立ちましょう。そのような信仰がその人を救うことができるでしょうか。もし、兄弟、姉妹の誰かが、着るものがなく、また、毎日の食べ物にも事欠いているような時に、あなた方のうちの誰かが、その人たちに、「安心して行きなさい。暖かになり、十分に食べなさい」と言っても、もし身体に必要なものを与えないなら、何の役に立つのでしょうか。”

今月の始め(4月4日)は、マルチン・ルーサー・キング Jr 牧師の 50 回忌でした。私の子供の時の思い出ですが、テネシー州メンフィスへ、キング牧師が殺されてから間がない時に叔母を訪問するため行ったことがあります。牧師が亡くなったロー

ラインホテルや亡くなった後で起きた暴動で焼け落ちたビルを見に行ったことを覚えていますが。牧師はメンフィスで公平な労働条件を得ようと活動するゴミ収集職員を支援していました。

そこで働いていた作業員の一人に、エルモア・ニッケルベリーという人がおり、彼は 86 歳になる現在も仕事をしています。彼は、彼が働いていた時代を思い出して..

“ゴミの桶は漏れて、作業服に滴となって落ちる。度々、ゴミを積み込むためにゴミ収集トラックの背によじ登らなければならない。

「トラックにゴミを積み込む時に、蛆(ウジ)が靴に入ってきた」とニッケルベリーは言う。

けれども、市当局者はアフリカ系アメリカ人労働者にシャワー小屋を使わせなかった。そこは白人の運転手を使うものだったからだ。”と語っています。

キング牧師は、ただ単に黒人であるだけで、この種の人種差別に反対する意見を述べたのではありません。

“これが今夜の皆さんへの質問です。「もし、私がゴミ清掃員への支援を止めたなら、私の仕事に何が起きるでしょう？」ではなく、「もし、私がゴミ清掃員への支援を止めたなら、私が毎日、毎週、通常自分のオフィスで牧師として費やす全ての時間に何が起きるのでしょうか？」でもなく、聞きたいことは、「もし私がゴミ清掃員の支援を止めなかったら、彼らに何が起きるのか？」これが私の質問です。”

翌日牧師が殺された時、彼は、彼の主である救い主、イエスキリストに従ったこと故に、自分自身を犠牲として捧げることができたのです。ただ自分のためだけに生きたいと言う誘惑から自由にされ、キリストの御名と力によって他者のために生きるように自由にされたのです。今、50 年が経ちました。彼の人生は今でも希望と感化を多くの人にもたらしています。なぜなら彼は、そのことを投資したかったからであり、神様が大きな収穫をもたらして下さると信じて種として植え付けたかったからです。彼はヤコブ書 3 章 17 節にある神様の教えに従ったのです。“平和を作る者は種のように平和を植え付けなければならない。そうすれば、正しく生きる実が収穫できる。”

神様は私達を教会員として、また一個人として、同じ種別の選択をするように、すなわち神様の御名によって人々に仕えることで神様の為に生きるよう、呼びかけておられます。

それはキング牧師のようにドラマチックな方法ではないかもしれませんが、彼のように有名にならないかもしれませんが。しかし、私達一人ひとりには自分のすべき貢献があり、それは神様が与えてくださった(持つことを許してくださった)さまざまな技術、経験、資源を使ってすることができるのです。私達はその賜物を使って何を

でしょう？私達の周りの、やもめ、孤児、外国人、貧しい人、その他傷ついている人とは誰のことでしょうか？

そのような人達は、私達がその人達を‘遇する仕方’で、私達の中にキリストを見ることが出来るのでしょうか？ 福住地区に住む人々やその他の札幌の地域に住む人々は、毎日の生活で、その中に暮らす私達の中に何を見ているのでしょうか？

私達は、そのような人々がもっと簡単に理解できるような方法で神様の愛を示す為に何をすべきでしょうか？

これら全ての疑問に今ここで答えしようとは思いません。これらの疑問は皆さんが個人として、また私達が、教会の家族として、ご一緒に回答すべきものです。

それは、皆さんが知っている経済的な困難に直面しているどなたか一人から始めて、神様が、その人の必要に答えて下さるまで一緒に祈ると言った簡単なことかもしれません。

友人を必要としている異なる文化圏の誰かを自宅の夕食に招待することかもしれません。多分神様は、皆さんに、もっと大きな事のための、また特別な方法(チャレンジ)を必要とする人々へ伝道するため、より明確な形のビジョンを与えてくださっていると思います。

しかし、主が皆さんにそのようにしなさいと語っておられるとはいえ、お一人おひとりが、この街で、そして復活されたキリストの自由の中で生きることが出来る神様の王国の建設のために、神様が使いたいと思われる道具になることを約束しましょう。ご一緒に祈りましょう。

自由なる神様。この静かなる時間に、はじめに、私達を完全かつ永遠に自由にしてくださいようお願いします。

罪の力から逃れていない、あなたのコントロールに堅く結ばれていない私達の生活全てにおいて、私達のところに来て、私達の救助者、主となって下さい。束縛から連れ出し、あなたの御霊による自由の中で歩めるようにして下さい。

でも、お父様、どうかここで止まらないで下さい。私達を引きずり下ろす全てのものから私達を自由にされたように、私達の家庭で、職場で、もっと大きなコミュニティで、私達を通して同じことを他の人々にして下さい。私達をあなたの手、足としてお使い下さい。私達を通して、あなたご自身が、愛のある、贖われるお方であることを、私達の回りの人に、その生活において知られるようにして下さい。あなたの良き計画の中であなたが選ばれる方法で、キリストのお名前により人々を自由にするため私達を使って下さい。キリストの御名によって祈りお願いします。アーメン

## 参考

Elliott, D. (March 28, 2018). "When MLK Was Killed, He Was In Memphis Fighting For Economic Justice. All Things Considered. National Public Radio. Retrieved April 8, 2018 from <https://www.npr.org/2018/03/28/597308044/the->

memphis-sanita  
justice

tion-workers-strike-kings-last-cause-for-economic-

Klein, A. (February 8, 2018). "Lucas was just named 2018 Gerber baby. He has Down syndrome." The Washington Post. Retrieved April 8, 2018 from [https://www.washingtonpost.com/news/inspired-life/wp/2018/02/07/lucas-was-just-named-2018-gerber-baby-he-has-down-syndrome/?utm\\_term=.8dd0cd0de0ea](https://www.washingtonpost.com/news/inspired-life/wp/2018/02/07/lucas-was-just-named-2018-gerber-baby-he-has-down-syndrome/?utm_term=.8dd0cd0de0ea)

Quinones, J. and Lajka, A. (August 14, 2017). "'What Kind of Society Do You Want to Live in?' Inside the Country Where Down Syndrome Is Disappearing." CBSN on Assignment. Retrieved April 8, 2018 from <https://www.cbsnews.com/news/down-syndrome-iceland/>

Smith, N. (September 4, 2017). "How Japan Needs to Change to Welcome Immigrants." Bloomberg View. Retrieved April 8, 2018 from <https://www.bloomberg.com/view/articles/2017-09-03/how-japan-needs-to-change-to-welcome-immigrants>

Zong, J., Batalova, J., and Hallock, J. (February 8, 2018). "Frequently Requested Statistics on Immigrants and Immigration in the United States." Migration Policy Institute. Retrieved April 8, 2018 from <https://www.migrationpolicy.org/article/frequently-requested-statistics-immigrants-and-immigration-united-states>